

2021.11.18



2021年度第2四半期決算 経営戦略進捗状況説明会

代表取締役社長
野崎 明



MINING THE FUTURE



住友金属鉱山

SUMITOMO METAL MINING

説明内容

- I. 総括
- II. 2021年度業績見通し
- III. 各事業トピックス
- IV. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進
- V. 次期中期経営計画について
- VI. 資料編

説明内容

- I. 総括
- II. 2021年度業績見通し
- III. 各事業トピックス
- IV. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進
- V. 次期中期経営計画について
- VI. 資料編

総括① 2021年度 足元までの振り返り（生産・販売、プロジェクト）

【生産・販売】

- ワクチン接種の進展などに伴う景気回復を背景に販売環境は概ね良好
- 各拠点での感染症拡大対策や操業維持努力が奏功し、
コロナ禍による生産への大きな影響は無し
- 高値圏で推移した金属価格の追い風もあり、前年度に対して増収基調が継続

【大型プロジェクト】

- シエラゴルド：全権益保有持分の譲渡を決定
- コテ ： 建設工事は順調に進捗も、初期起業費が25%増加
- QB 2 ： 建設人員はコロナ前の水準（10,000人超）に回復
- ポマラ：外的要因により検討進捗に影響
- 電池材料：新工場建設を含む増強起業決定

総括② 2021年度 足元までの振り返り（設備投資、業績予想）

【設備投資】

コロナ影響により全般的に計画が後ろ倒しに。ただし、18中計で掲げた成長戦略の推進に変更はない

【業績予想】

- シエラゴルダ銅鉱山に係る権益譲渡の影響額を、税引前利益ベースで約700億円と想定（前提：22/3月までに譲渡実行完了）
- 一部の海外銅鉱山などの減産や、それらに起因するコスト増などのマイナス要因あるも、コロナ禍下での安定操業維持、材料事業の増益のほか、相場要因の追い風、シエラゴルダ権益譲渡影響額などにより、前回5月予想に対し大幅増益を見込む。
2021年度予想 連結税引前利益は、過去最高の2,660億円

総括③ 足元の経営課題（1）

【社会課題への対応】

1) カーボンニュートラル（被選別リスク、技術開発・適用難度）

- ⇒ ✓ 再生可能エネルギーの導入推進、エネルギー効率化の追求
- ✓ GHG排出量削減に貢献する製品の開発・供給
- ✓ 社内カーボンプライシング制度

2) DX（競争力劣後リスク、セキュリティリスク）

- ⇒ ✓ DX推進委員会（21/4月発足、委員長:社長）
- ✓ 既存工場でのデータ解析精度向上⇒ロス低減/収率向上

3) 人材戦略（確保・育成・活用）（企業活力減退リスク）

- ⇒ ✓ 人材確保にフォーカスしたブランド・コミュニケーション
- ✓ 式年改革プロジェクトの推進
- ✓ 人事・報酬制度の抜本的改正
- ✓ 本社オフィスリニューアル

総括③ 足元の経営課題（2）

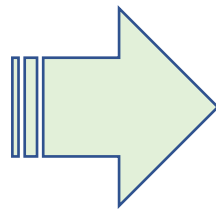
【経営基盤の強化】

- ✓ 従業員の安全・衛生（←18中計目標は未達）
- ✓ 環境
- ✓ コンプライアンス
- ✓ コーポレートガバナンス

【成長戦略の推進】

- ✓ 18中計「3大プロジェクト」（QB2、ポマラ、電池材料）
→ 事業を取り巻く環境、資源ナショナリズムへの対処
- ✓ 更なる成長の道筋（→ 2021年中期経営計画）

住友の事業精神が培った
「7つの競争力」
（「統合報告書2021」 P28）



「2030年のありたい姿」
実現

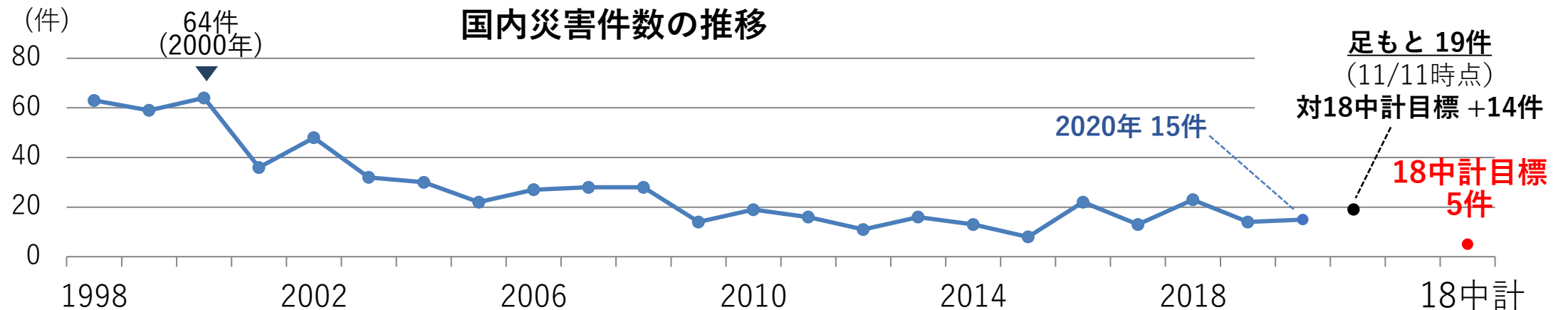
総括④ 安全に対する取り組み

《国内社員災害》 18中計目標 5 件以下 ⇒ **21年実績 19 件** (11/11現在)

2021年6月、国内関係会社事業所でフォークリフトと人の接触による死亡災害発生

- 原点に立ち返り、ルールの順守、基本動作の確実な実行を徹底する
- 効果的なリスクアセスメントにより、設備の安全化改善強化を更に推進する
- 作業観察により現場での現実を見抜き、是正や対策をさらに進める

18中計期間目標 国内社員災害 5 件以下 (21年実績19件)
海外事業場災害 3 件以下 (21年実績2件)



説明内容

- I. 総括
- II. 2021年度業績見通し**
- III. 各事業トピックス
- IV. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進
- V. 次期中期経営計画について
- VI. 資料編

1) 業績推移 (2015年度～2021年度予想)

(億円)		日本基準【J-GAAP】			国際会計基準【IFRS】				
		2015	2016	2017	2017	2018	2019	2020	2021予想(11月)
売上高		8,554	7,861	9,335	9,297	9,122	8,519(※2)	9,261	11,750
営業利益		597	764	1,102	—	—	—	—	—
経常損益		-128	-16	1,249	—	—	—	—	—
税引前損益		6	-60	1,058	1,083	894	790	1,234	2,660
内持分法投資損益		-732	-860	114	123	-49	62	87	460
セグメント利益 ※3	資源	-443	-536	560	580	473	379	631	1,840
	製錬	253	333	515	478	409	482	530	730
	材料	60	121	153	71	138	53	105	180
	その他	-8	-1	2	-74	-20	-9	-28	-20
	調整額	10	67	19	28	-106	-115	-4	-70
当期損益(※1)		-3	-185	916	902	668	606	946	2,140
銅 (\$/t)		5,215	5,154	6,444	6,444	6,341	5,860	6,879	9,071
ニッケル (\$/lb)		4.71	4.56	5.06	5.06	5.85	6.35	6.80	8.14
金 (\$/Toz)		1,150	1,258	1,285	1,285	1,263	1,462	1,824	1,751
コバルト (\$/lb)		11.73	13.67	30.64	30.64	31.64	15.76	16.62	21.21
為替 (¥/\$)		120.15	108.40	110.86	110.86	110.92	108.74	106.07	109.90

※1: 親会社の所有者に帰属する当期利益

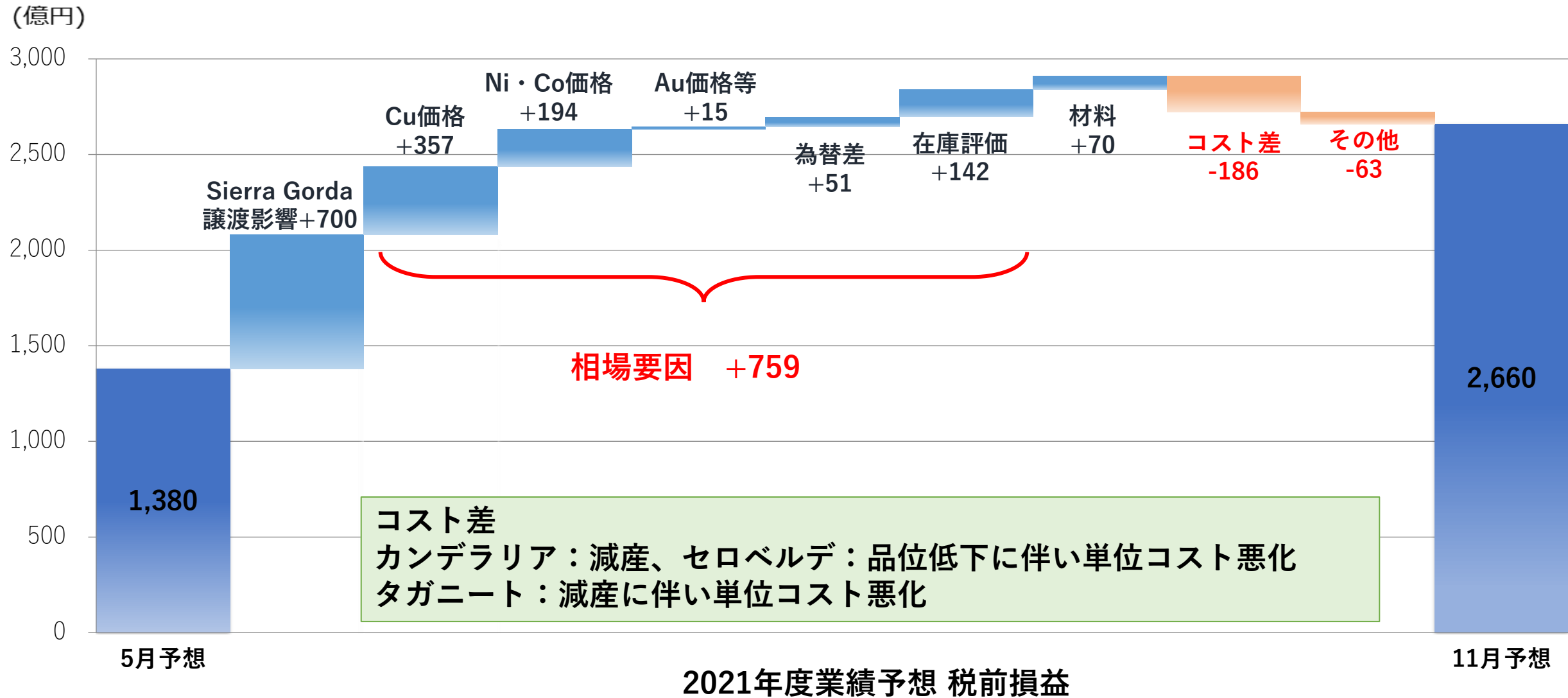
※2: 有償支給品に係る会計方針の変更の遡及適用後。

※3: 2021年度より報告セグメントに帰属しない費用の配賦方法を変更しており、2020年度は遡及適用しています。

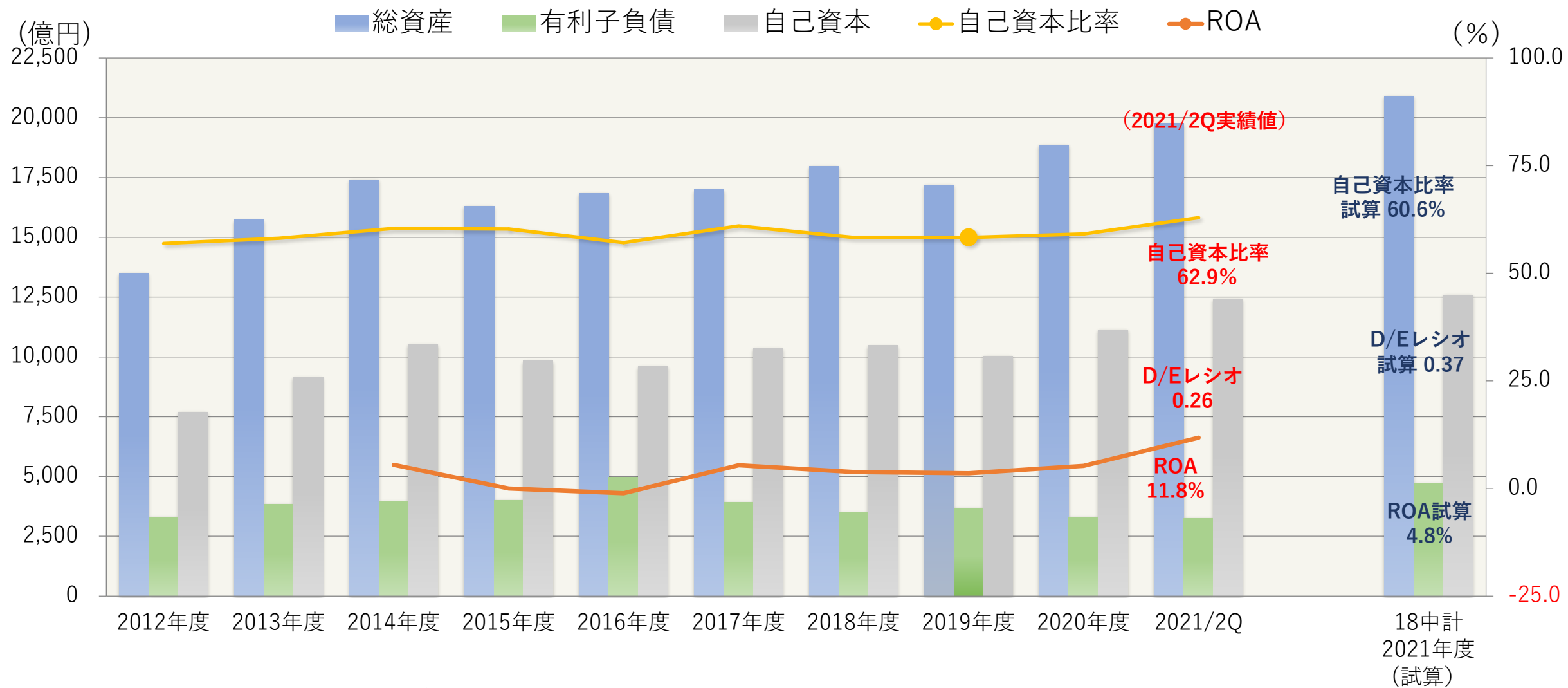
2) 2021年度業績予想（11月予想 対 5月予想）

(億円)		2021上期実績	2021下期予想	2021年度予想(11月)	2021年度予想(5月)	増減
売上高		5,979	5,771	11,750	10,470	+1,280
売上総利益		1,147	833	1,980	1,500	+480
税引前損益		1,217	1,443	2,660	1,380	+1,280
内 持分法投資損益		244	216	460	405	+55
セグメント利益	資源	674	1,166	1,840	890	+950
	製錬	502	228	730	370	+360
	材料	130	50	180	110	+70
	その他	0	-20	-20	-20	0
	調整額	-89	19	-70	30	-100
親会社の所有者に 帰属する当期純利益		1,138	1,002	2,140	1,040	+1,100
銅 (\$/t)		9,541	8,600	9,071	7,800	+1,271
ニッケル (\$/lb)		8.27	8.00	8.14	7.00	+1.14
金 (\$/Toz)		1,803	1,700	1,751	1,700	+51
コバルト (\$/lb)		22.43	20.00	21.21	15.00	+6.21
為替 (¥/\$)		109.8	110.0	109.9	107.0	+2.9

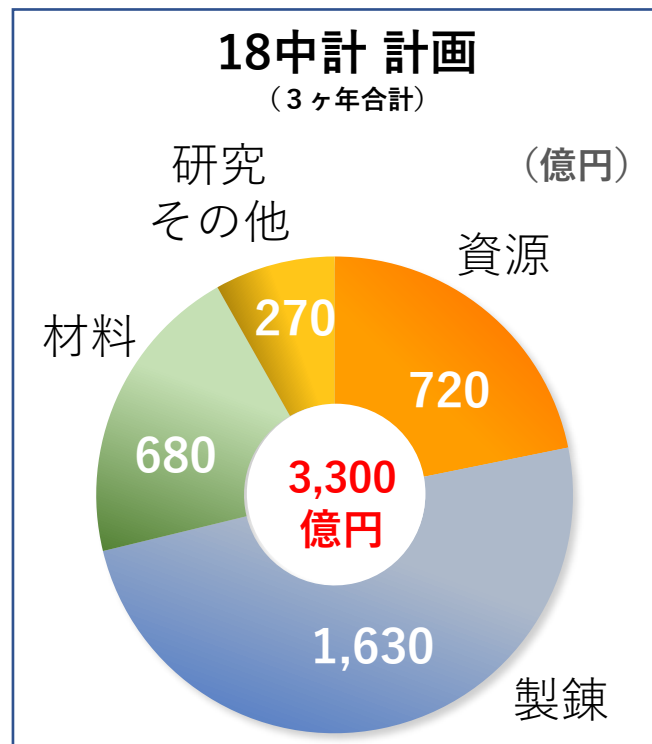
3) 税前損益分析 2021年度 11月予想 対 5月予想



4) 財務状況の推移



5) 設備投資計画 (2021年度)



+

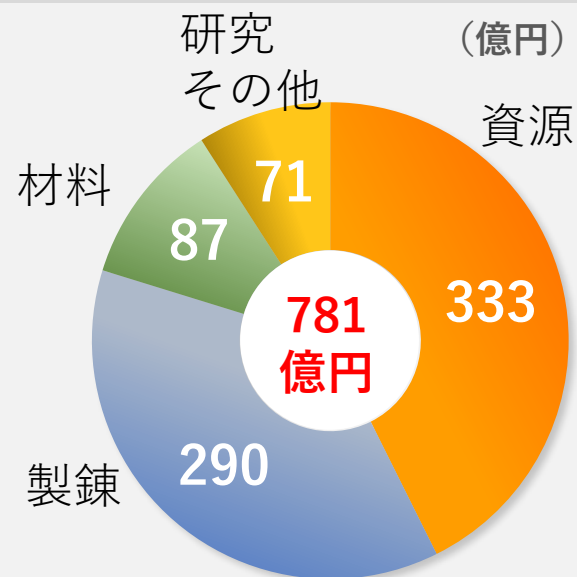
投融資

(QB II 他 1,600億円)

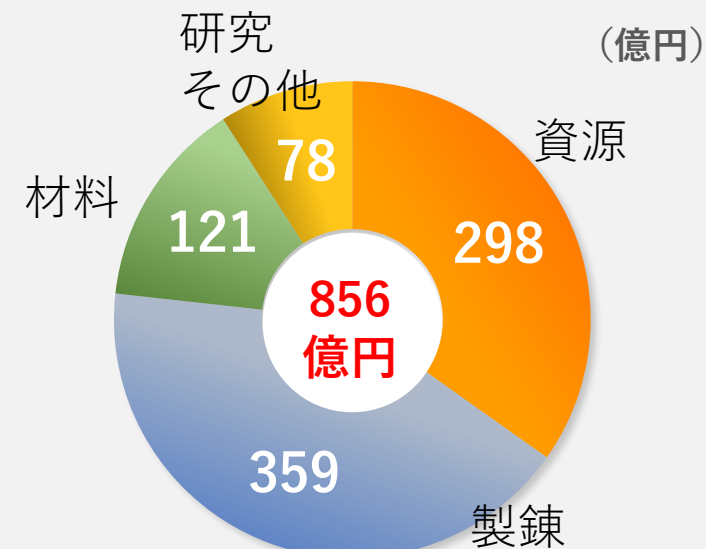
主要案件

(カッコ内は計画総額)

2021年度 計画
(11月)



2021年度 計画
(5月)

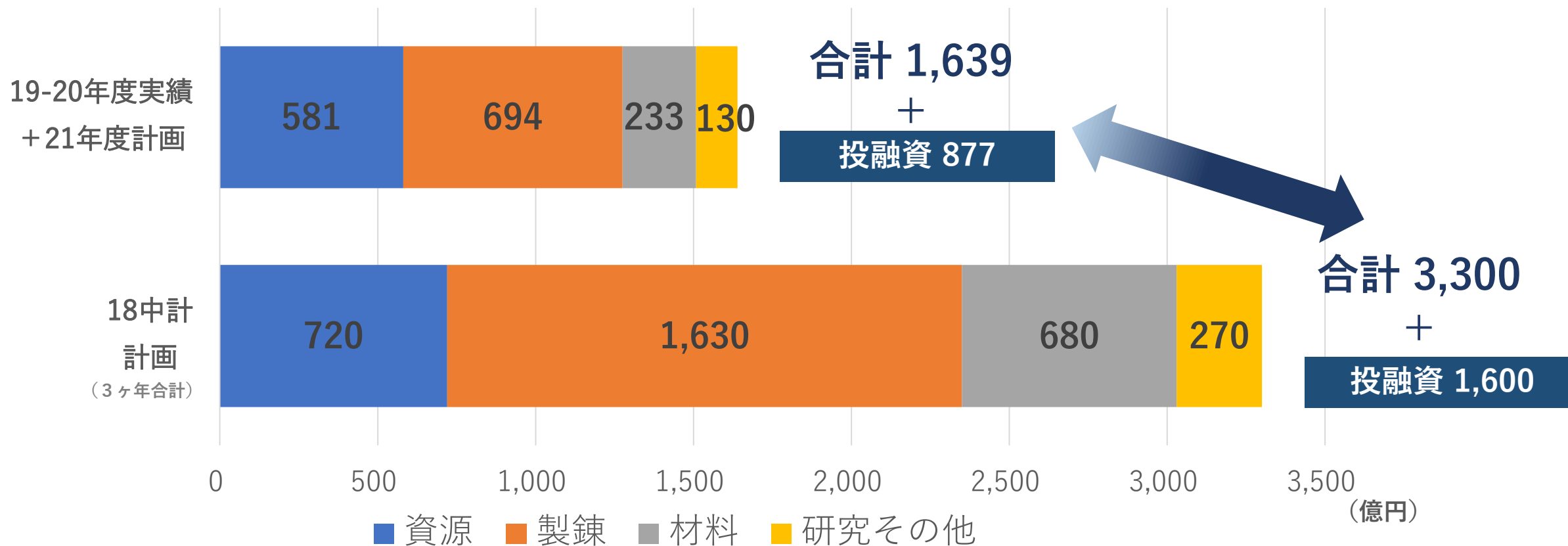


- ・ コテ金開発プロジェクト 204億円 (総額 536百万米ドル)
- ・ 車載電池向け正極材増産 (別子地区 + 播磨事業所) 5 億円 (総額470億円)
- ・ 電池研究所の拡張・設備拡充 14億円 (総額 16億円)
- ・ 別子事業所独身・单身寮新設 10億円 (総額 47億円)
- ・ 菱刈鉱山下部鉱体開発 4 億円 (総額 37億円)
- ・ ボイラーLNG 化※ 2 億円 (総額 8億円)

※社内カーボンプライシング適用案件

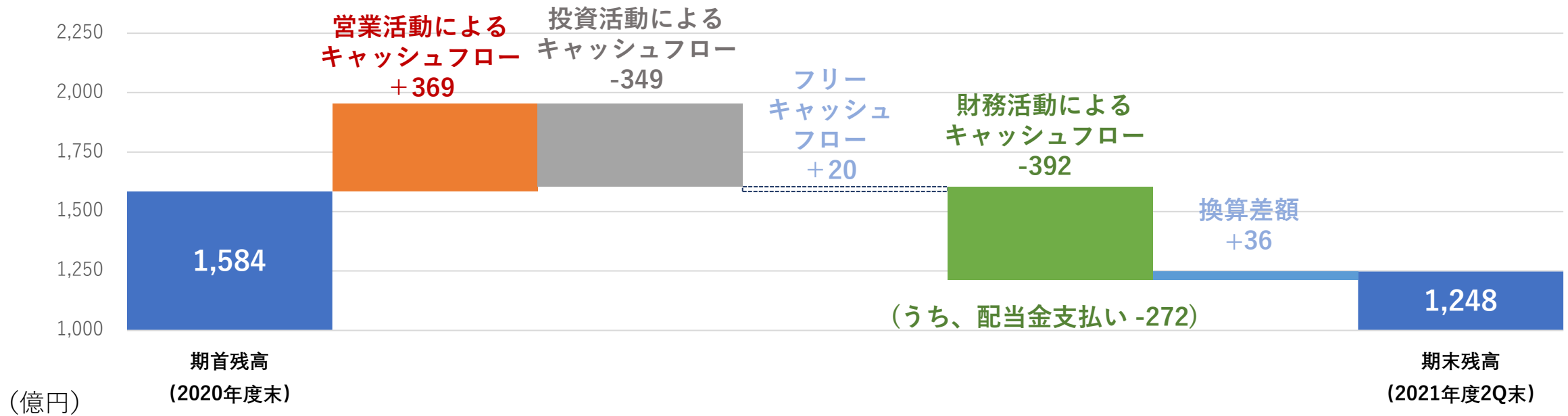
ポマラプロジェクトは、当社として投資決定の判断を下した段階で個別に公表予定。

6) 設備投資・投融資計画（対18中計 比較）



コロナ禍での投資時期の後ろ倒しによる影響（ポマラ、投資圧縮など）や、QB2プロジェクトにおけるプロジェクトファイナンスの活用で、進捗率は約50%

7) キャッシュフロー（2021年度上期実績）

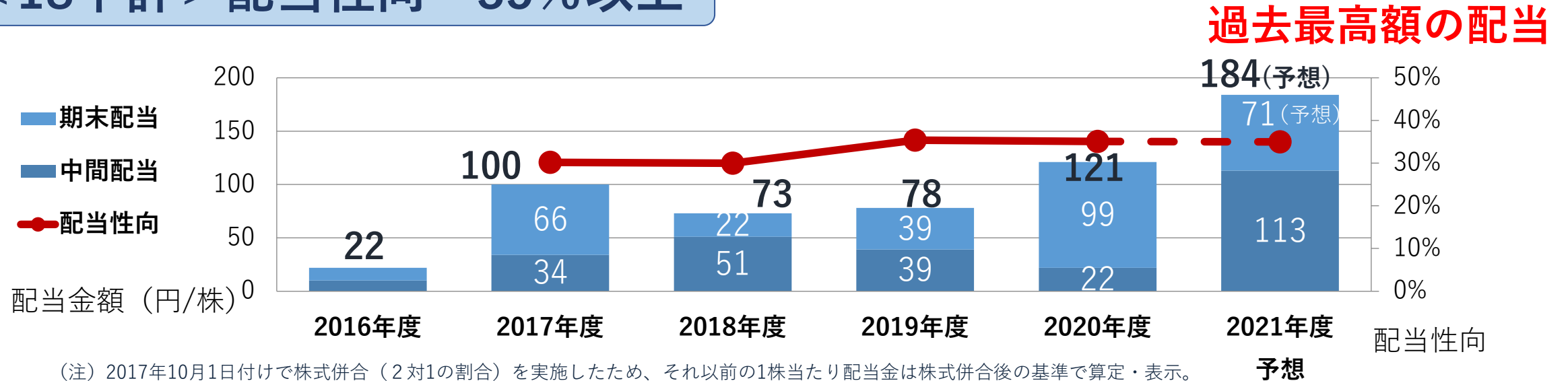


金属価格上昇局面のため、利益好転に対しキャッシュアウトが先行

18中計に掲げた成長戦略を引き続き推進していくことに変わりはなく、
タイミングがずれた分は今後支出していく

8) 株主還元（配当予想：2021年度）

<18中計> 配当性向 35%以上



<2021年度配当予想について>

- シェラゴルダ（SG）権益譲渡はスケジュールが確定しておらず、次年度にずれ込む可能性がある。よって、現時点ではSG権益譲渡に関する影響額+700億円を除いて年間配当予想を計算（184円）した。（配当性向35.1%）
- SG権益譲渡に関する影響額には、改訂IAS第28号の適用に伴う貸倒引当金の戻入益に相当する金額を含むが、引当金を認識した際に期首調整として計上しており損益勘定（PL）を通していないため、譲渡実行日確定した以降に開示する配当では、本引当金の戻入益に相当する金額を除いたベースで、連結配当性向35%以上を維持する
- 現時点の概算では、影響額+700億円のうち400～500億円程度が戻入益相当と見込む

説明内容

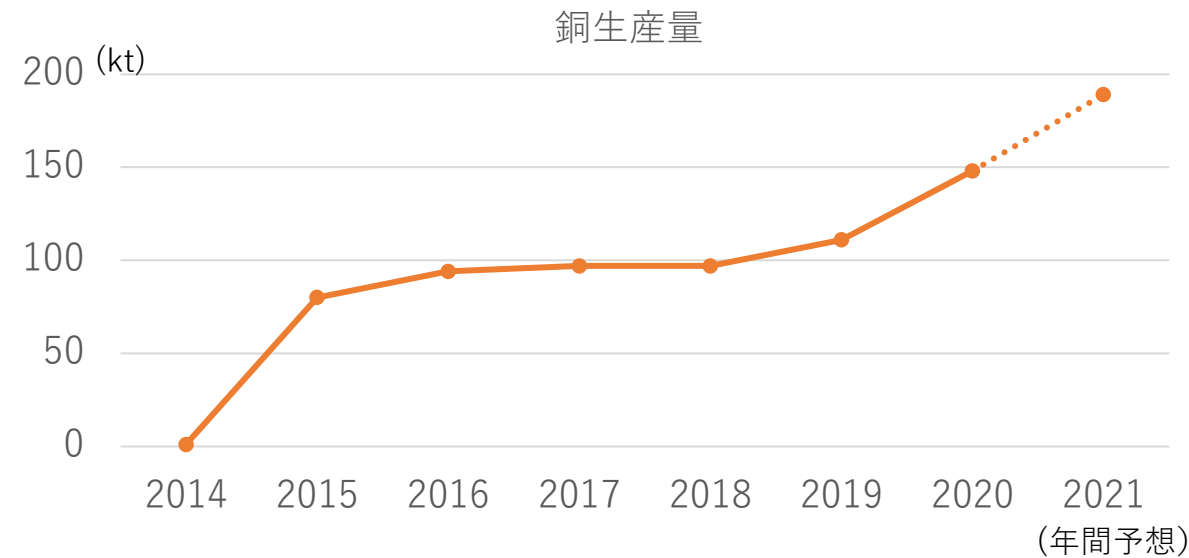
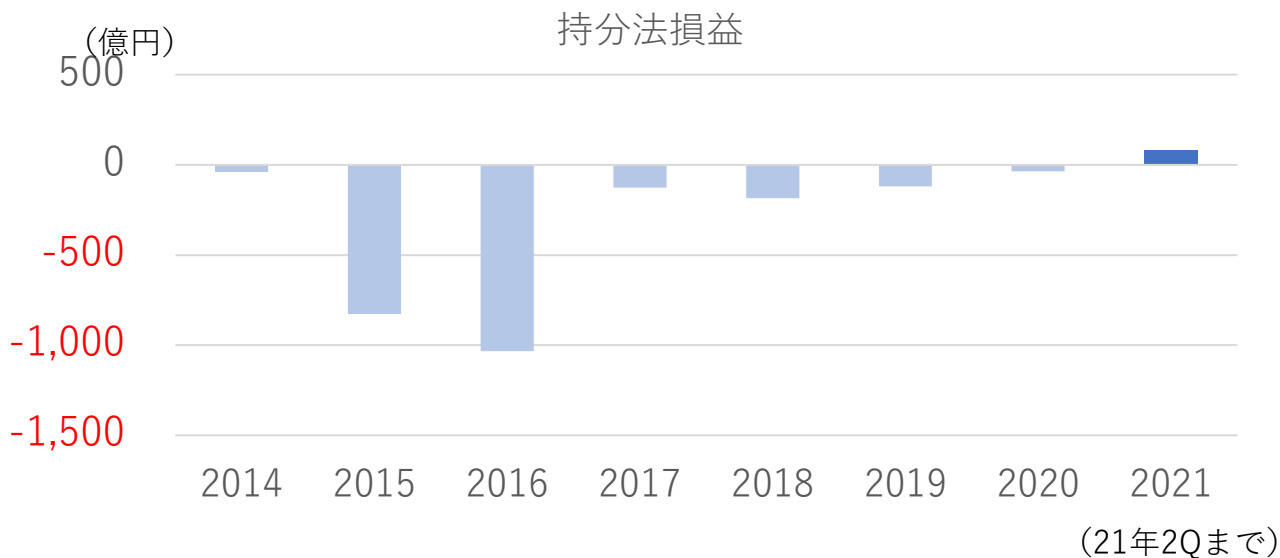
- I. 総括
- II. 2021年度業績見通し
- III. 各事業トピックス**
- IV. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進
- V. 次期中期経営計画について
- VI. 資料編

1) 資源 ① シェラゴルダ銅鉱山

◆ 10月14日 South32社への権益譲渡を発表

影響額は +700億円 (税引前利益) と想定
(前提: 22.3.31までに譲渡実行完了)

- 操業改善を実現し業績も好転、鉱山の魅力アップ
⇒ 適切な譲渡価格 (1,190M\$) で合意
- 全社的ポートフォリオ見直しの一環



1) 資源 ② QB2プロジェクト（進捗・今後の予定）

◆ 引き続き2022年後半生産開始に向けて建設加速（全体進捗65%超）

- 足元では10,000人以上を動員
- 新型コロナウイルス対策の徹底継続

◆ 起業費は52億ドルから変更なし、コロナ対策費用として6億ドル追加



コンベヤ設置



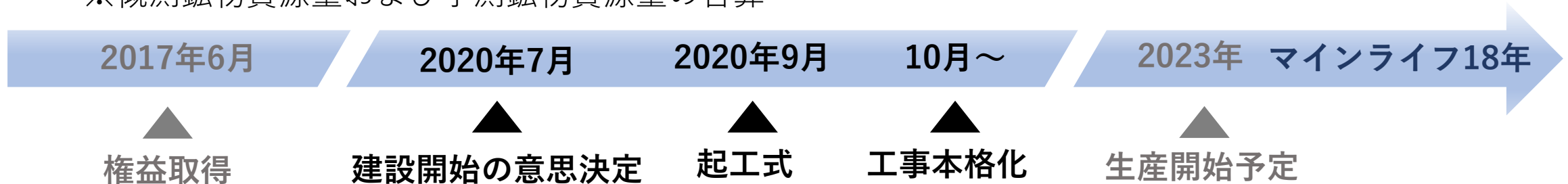
選鉱場

1) 資源 ③コテ金開発プロジェクト (進捗・今後の予定)

- ◆ 起業費が14.2億ドルから17.9億ドルに増加。建設工事内容の詳細仕様の変更に伴う資材の数量や工数の増加、経済環境の変化等による。
- ◆ 周辺のゴセリン地区で追加資源量を確認 (157t) ※
- ◆ 引き続き2023年の生産開始に向けて推進



※概測鉱物資源量および予測鉱物資源量の合算



1) 資源 ④ 菱刈鉱山

◆ 操業

- 18中計通り、年間6tの安定生産を継続。
足元の生産も順調。
- 2020年末の可採金量は159t。

◆ 下部鉱体開発

- 現状の温泉水位（海拔-32ML～-10ML）を約30m下げるための、-80ML新抜湯室を建設中。
今年1月より抜湯対象鉱脈への試錐を開始。



抜湯ボーリングの様子

1) 資源 ⑤ 海外銅鉱山 (モレンシー、セロベルデ、カンデラリア)

◆ モレンシー

- 2021年度の生産量見通し 401kt/年 (5月計画 368kt/年)
- 新型コロナウイルスの影響減少により採掘量の追加、選鉱場の一部再開など、生産量増加に向けた施策を開始

◆ セロベルデ

- 2021年度の生産量見通し 393kt/年 (5月計画 409kt/年)
- 鉱石品位低下も処理量増加により挽回を図る

◆ カンデラリア

- 2021年度の生産量見通し 135kt/年 ※ (5月計画 175kt/年)
- 採掘箇所の一部に安定性の懸念が生じたため

※オホスデルサラドとの合算

2) 製錬 ① Pomalaaプロジェクト (検討状況・今後の取り組み)

早期の投資意思決定に向け、 手続き・協議を継続中

フィリピンのCBNC・THPALに続く 当社として第3のHPALプロジェクト

- 40kt-Ni/年の生産を見込む。
- 長期ビジョンで掲げる150ktへのマイルストーン。xEV需要により拡大が期待されるClass1ニッケル製錬への原料供給。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、必要な許認可取得やパートナーとの協議に時間を要している状況。
- GHG削減策としてLNG発電を検討中。



2) 製錬 ② 国内製錬所

- 東予工場：10月から約1カ月間の定期休転を実施中。
2021年度の電気銅生産計画は424kt。
- ニッケル工場：2021年度の電気ニッケル生産計画は54.0kt。
- 播磨事業所・ニッケル工場：
電池向け需要拡大を受けて硫酸ニッケルのフル
生産を継続。
2021年度は79.7ktと過去最高の生産を計画。
- 日向製錬所：2021年度のフェロニッケル生産
計画は13.0kt。



2) 製錬 ③ CBNC/THPAL



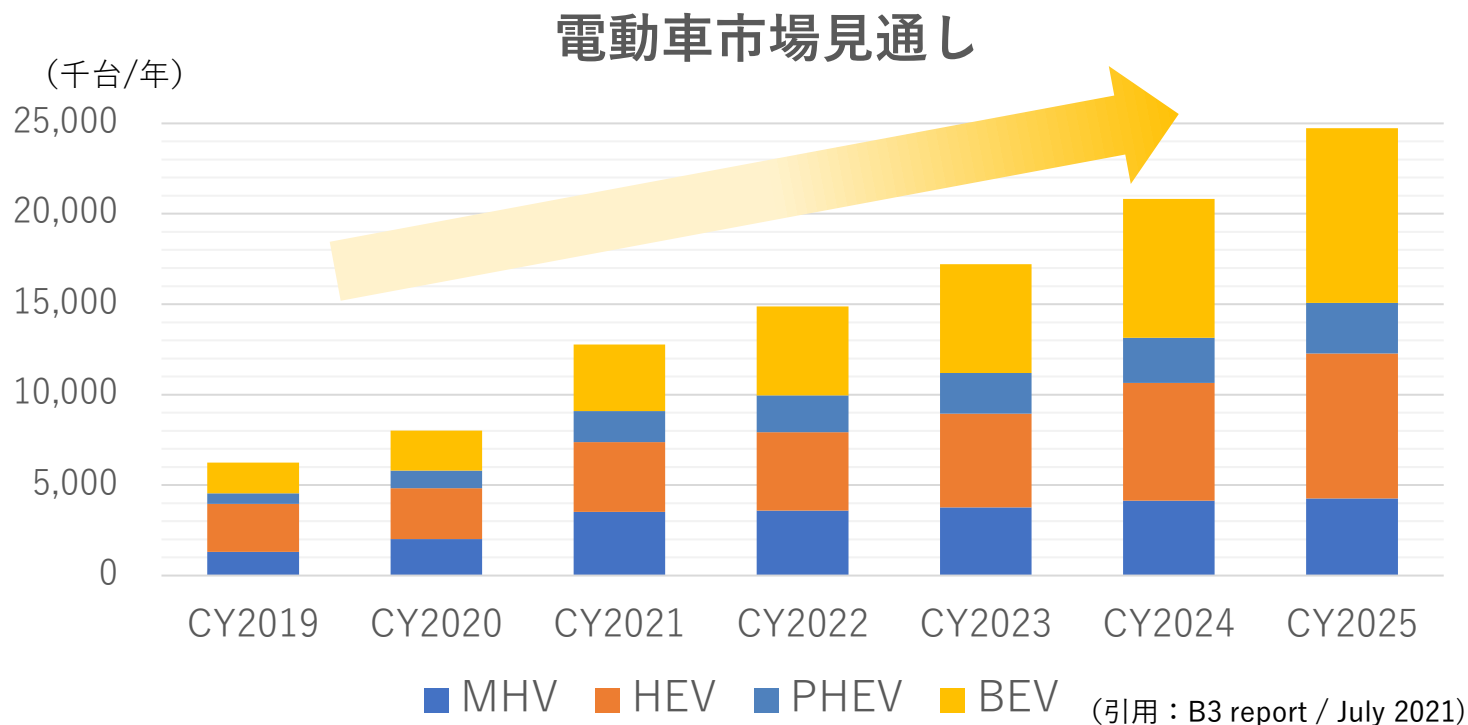
<CBNC>

- 2021年度の生産計画は19.4kt。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、操業度を一時的に低下。

<THPAL>

- 2021年度の生産計画は29.6kt。
ボイラー設備トラブルの影響により減産
- 2021年度よりクロマイト（ステンレス原料）販売を開始

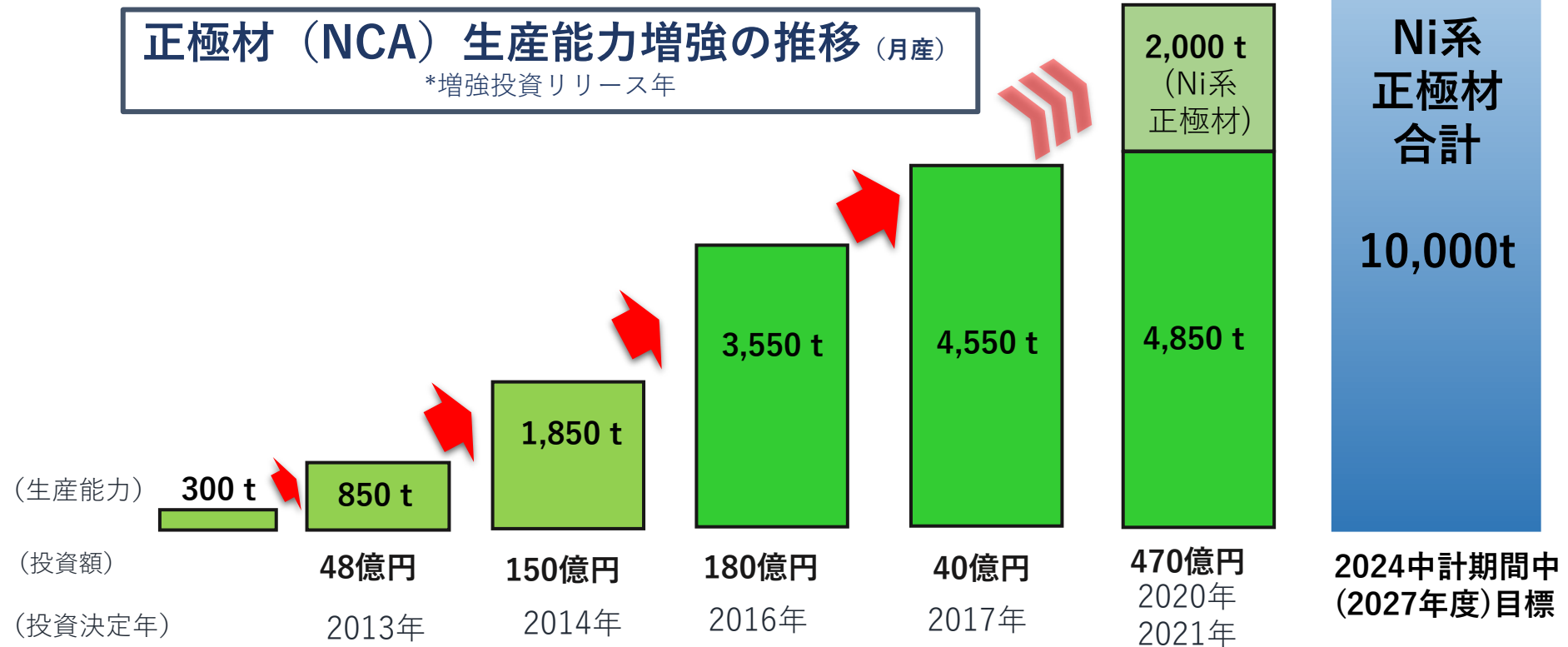
3) 材料 電池材料 ① 市場動向・当社への影響等



三元系正極材 (NMC)

2021年度は電動車市場全体が大きく回復
特に中国・欧州でBEV（電気自動車）の販売が好調

3) 材料 電池材料 ②生産能力増強 (現況・展望)



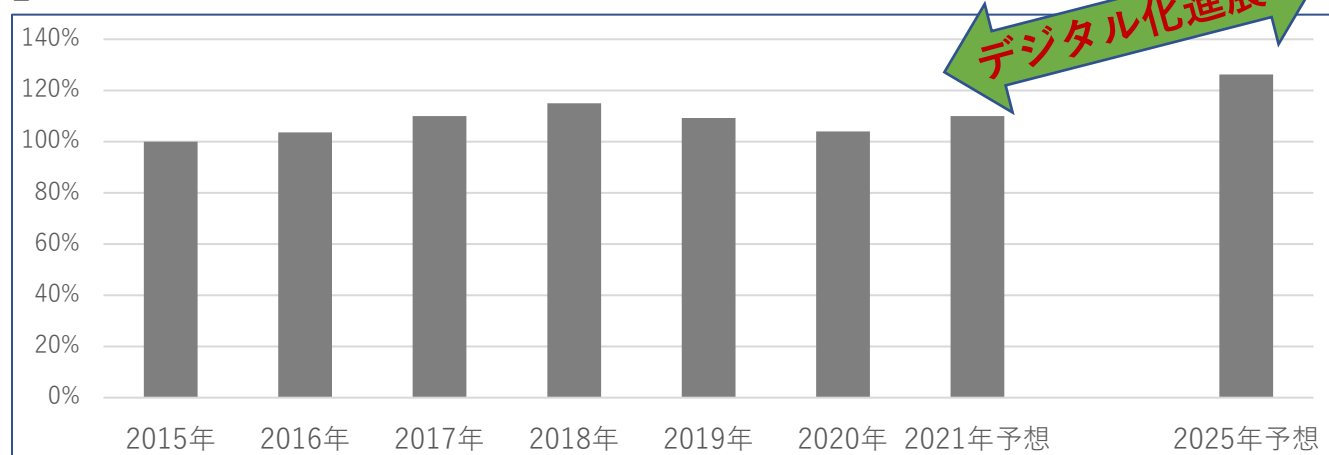
- ・ 2021年7月に新居浜地区 (愛媛県) で**2,000tの増産投資**を決定
⇒次期増産については、立地、生産品種等の課題を次期中計に合わせて検討
- ・ 電池研究所の拡張・設備拡充 2022年7月完成予定

3) 材料 機能性材料 ① 市場動向

- ✓ 21年度上半期：半導体不足、コロナ影響によりスマホ、自動車販売は想定を下回るも、5Gスマホの拡大、デジタル化の進展、設備投資の回復などにより、販売は前年比で増加。
- ✓ 下半期、中長期見通し：一時的な在庫調整局面は発生するが、デジタル化の進展、高度化を背景に各製品の需要拡大が見込まれる。

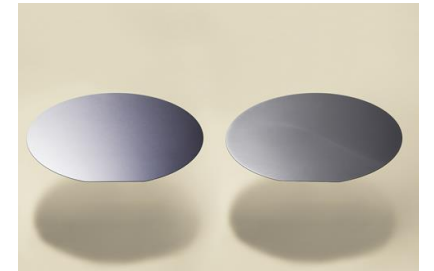
◆ デジタル化の進展・高度化

【電子部品 グローバル需要推移】 ※2015年を100とした場合



出典：各種調査機関等のデータを参考に、当社推計・作成

高機能材料の需要増



3) 材料 機能性材料 ② 機能性インク (近赤外線吸収材料)

◆ CWO[®] (セシウム酸化タングステン)

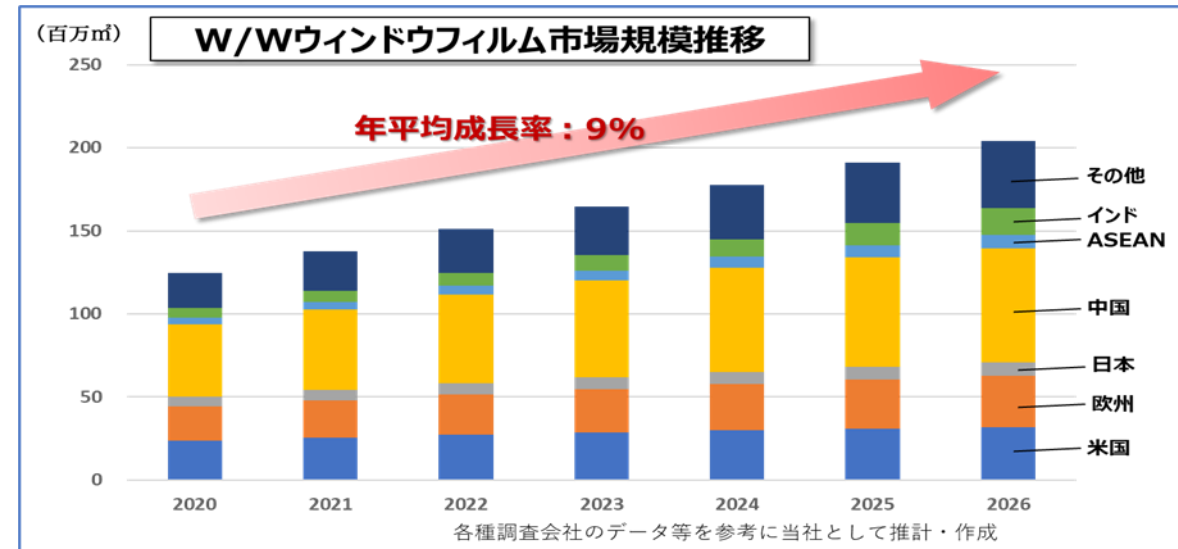
- ✓ 高い可視光線透過性と強力な近赤外線(IR)吸収能力を合わせ持ち、優れた耐候性を有する
- ✓ 当社が特許権を有する新規化学物質



➤ 自動車用ウィンドウフィルムの大手メーカーがCWO[®]を採用

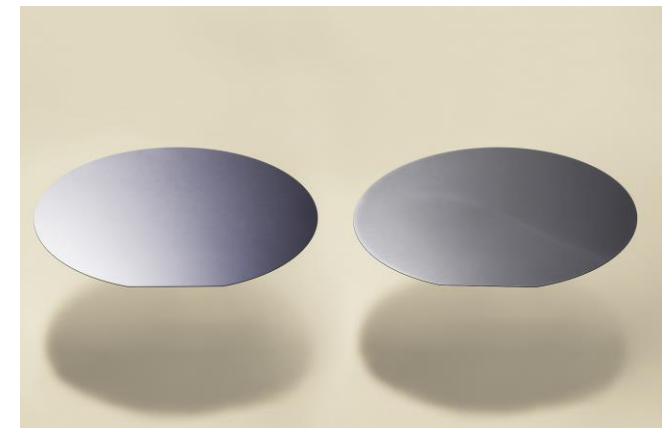
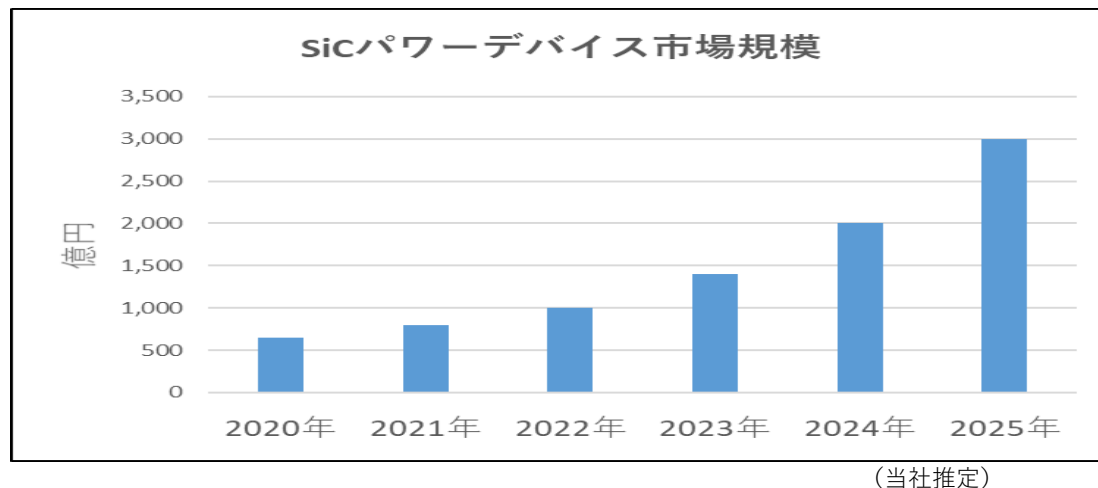
➤ 新規市場開拓：各一流メーカーにサンプルワーク

- ・衣料向け (発熱繊維)
- ・農業向け (ハウス用調光ネット)
- ・3Dプリンタ向け (光触媒)
- ・セキュリティ印刷向け (IR認識)



3) 材料 機能性材料 ③ SiC基板開発

- ◆SiC(シリコンカーバイド)：パワー半導体に使用される半導体材料
高温・高周波・高電圧環境で優れた特性を発揮。
- ◆(株)サイコックスの「貼り合せSiC基板」
 - 安価な支持基板の使用により、SiC単結晶に比べ低コストを実現する。
 - SiC単結晶の特性を維持しつつ、基板全体の低抵抗化と高強度化を実現。
- ◆ 21年度：商業生産開始予定、25年：月産1万枚（6インチ換算）を目指す。



説明内容

- I. 総括
- II. 2021年度業績見通し
- III. 各事業トピックス
- IV. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進**
- V. 次期中期経営計画について
- VI. 資料編

1) TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 賛同後の取り組み

シナリオ	区分	ドライバー	想定状況 (2050年)	ビジネスインパクト	リスクと機会 (中長期)	当社グループのアプローチ: 「2030年のありたい姿」に向けた取り組み
1.5℃	気候変動政策	カーボンプライシング(炭素税、排出量取引など)	・ 全体的な金額の上昇(国や地域による)	税負担などの増加 低炭素化設備投資・研究開発費の増加	リスク 大 リスク 短期～長期 大	・ 気候変動「GHG 排出量の削減」 [P.71～74参照] ・ 気候変動「GHG 排出量の削減」 [P.71～74参照] ・ 非鉄金属資源の有効活用 [P.68～70参照] 「新技術導入による生産性向上」、「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の改善」
	気候変動政策	自動車規制の強化、LEV's促進政策	・ 燃費規制強化、移動規制導入 ・ EVやLEV's [※] への政策的支援 ・ 内燃車はLEV'sに置換	・ EVの普及に伴う電池・ニッケル需要の拡大による売り上げ増加		・ 気候変動「GHG 排出量の削減」 [P.71～74参照] ・ 非鉄金属資源の有効活用 [P.68～70参照]
	社会・インフラ	自動車関連DXの進展、価値観の変化	・ 自動運転、MaaS [※] 、カーシェアリングの普及 ・ 自家用車の減少	・ 水素社会、FCVの普及による酸化ニッケル粉、リチウム電池の売り上げ増加	機会 大	「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の改善」、「未利用非鉄金属資源の有効活用技術の開発」、「自社の強みを活かし社会に貢献する新製品・新事業の創出」、「自社原料保有による有利・安定調達」、「有利な自社ニッケル原料の安定調達による、低コスト電池正極材の販売拡大」
	技術	水素利用技術、燃料電池	・ FCVの普及 ・ EV、PHEVの普及	・ その他の低炭素負荷製品の売り上げ増加		
	気候変動政策	エネルギーの電力へのシフト	・ 最終エネルギー消費に占める電力比率の増加	・ 送電網の強化に伴う銅需要の増加(アルミニウムなどとの競合あり)	機会 大	・ 非鉄金属資源の有効活用 [P.68～70参照] 「銅鉱山プロジェクトの推進」、「新規優良銅金資源の獲得」
	技術	車載用蓄電池の技術シフト	・ 車載用蓄電池の市場シェアのシフト	・ コバルトフリーに伴う、ニッケル比率の上昇とニッケルの売り上げ増加 ・ 次世代電池として当社の技術が活かせる全固体電池 ・ コバルトフリーに伴い、鉄・マンガン系電池が普及 ・ 次世代電池として当社の技術が活かせない新しい電池が普及	機会 中 リスク 中	・ 気候変動「GHG 排出量の削減」 [P.71～74参照] ・ 非鉄金属資源の有効活用 [P.68～70参照] 「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の改善」、「未利用非鉄金属資源の有効活用技術の開発」、「自社の強みを活かし社会に貢献する新製品・新事業の創出」、「自社原料保有による有利・安定調達」、「有利な自社ニッケル原料の安定調達による、低コスト電池正極材の販売拡大」
	社会・インフラ	Responsible Sourcing、環境フットプリント、事業の社会的インパクトなどへの関心	・ 持続可能性に対する意識向上 ・ ESG投資の主流化 ・ 代替材料やリサイクル金属の利用の可能性拡大	・ 原料確保の制約、原料コストや製造コストの上昇、 ・ 自山鉱のメリット拡大 ・ 車載用二次電池のリサイクル事業の拡大 ・ ESG投資によるファイナンスへの影響 ・ 当社取り組みが不十分と評価される場合のレピュテーションリスク	機会 中 リスク 中～大	・ 非鉄金属資源の有効活用 [P.68～70参照] 「銅鉱山プロジェクトの推進」、「新規優良銅金資源の獲得」、「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の向上」、「自社原料保有による有利・安定調達」、「車載用二次電池リサイクル技術の実証と事業化」 ・ サプライチェーンにおける人権 [P.92～93参照] 「CSR調達、特に責任ある鉱物調達」 ・ 先住民の権利 [P.91参照] 「先住民や先住民の伝統と文化の理解」、「先住民の伝統と文化の尊重につながる取り組みへの支援」
	4℃	気温・降雨	平均気温・海水温・海面上昇	・ 海面上昇 ・ 高潮発生頻度の増加	港湾機能の低下や高潮のリスクが上昇し、沿岸部の一部の事業場で設備的対策を要する可能性 一部地域の事業場で洪水や水不足のリスクが増大し、設備的対策を要する可能性	リスク 大 リスク 大
熱波、洪水、水不足などの異常気象の増加			・ 大雨、台風の頻度増加 ・ 地域によっては洪水や水不足リスクの増加	キーサプライヤーの操業低下、調達・出荷ルート途絶による工場操業低下	リスク 大	・ 重大環境事故・生物多様性「重大環境事故 ゼロ」 [P.75～79参照] 「重大環境事故 ゼロ」、「有害物質排出量低減」
				尾鉱ダム損壊リスクの上昇に伴う設備的対策を要する可能性	リスク 大	・ 重大環境事故「重大環境事故 ゼロ」 [P.75～79参照]

「統合報告書2021」 P72

「統合報告書2021」で気候変動シナリオ分析結果を開示

- 世界の平均気温 1.5°C上昇・4°C上昇でシナリオ分析を実施 リスクと機会を抽出
- ICMMコミットメント

「“2050年までにCO2 ネットゼロを達成する”ための明確な道筋を2023年までに構築」に賛同

⇒ カーボンニュートラル対応の加速化が重要

2) その他主要施策の進捗状況と今後の予定

2030年のありたい姿 先住民の伝統と文化を理解し尊重する企業

先住民理解の促進

- 2021年7月：当社グループ役員・従業員対象の教育動画を制作・配信
(11月現在 当社グループ国内外約4千人以上が視聴)

⇒ 今後も社内理解の促進に努めていく



2030年のありたい姿 サプライチェーン全体でCSR調達(Responsible Sourcing)に取り組んでいる企業

2021年3月：コバルトを生産する精錬所での第三者監査受審完了
(ニッケル工場、播磨事業所)

- 「責任ある鉱物調達」「CSR調達」に関する顧客からの調査急増

⇒ 迅速かつ正確な対応を継続中



電気コバルト

説明内容

- I. 総括
- II. 2021年度業績見通し
- III. 各事業トピックス
- IV. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進
- V. 次期中期経営計画について**
- VI. 資料編

V. 次期中計（2021年中期経営計画）について

対象年度：2022年度～2024年度（3ヶ年）

公表時期：2022年2月中旬（予定）

- 18中計で掲げた「長期ビジョン」を継続
- 「資源・製錬・材料」のコアビジネスで、さらなる成長のための戦略を策定
- 経営課題（足元および将来）への実効性のある対応・施策

(ご案内) 特別展「ポンペイ」への特別協賛



2022年1月14日～4月3日
東京国立博物館（上野）で開催

その後12月にかけて、京都・宮城・福岡で
順次開催

銅や金をはじめとする非鉄金属を使った作品も
数多く展示

説明内容

- I. 総括
- II. 2021年度業績見通し
- III. 各事業トピックス
- IV. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進
- V. 次期中期経営計画について
- VI. 資料編**

1) 需給動向（銅、ニッケル）

銅

[ICSG予測2021/10]

(kt)

	2020	2021(予)	2022(予)
Production	24,510	24,920	25,886
Usage	24,989	24,963	25,558
Balance	-479	-42	+328

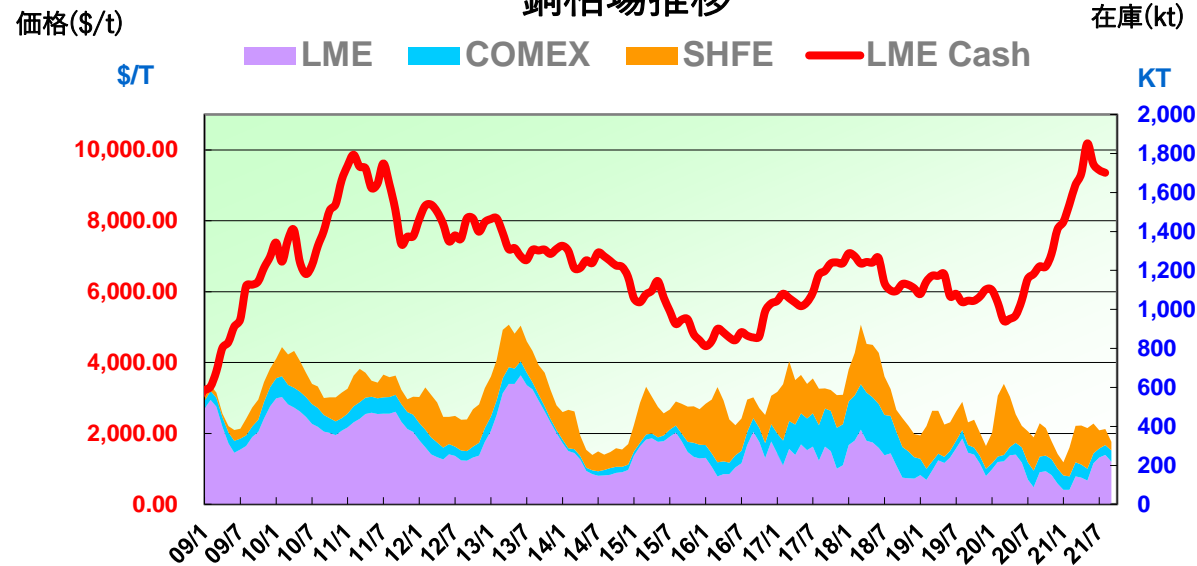
ニッケル

(kt)

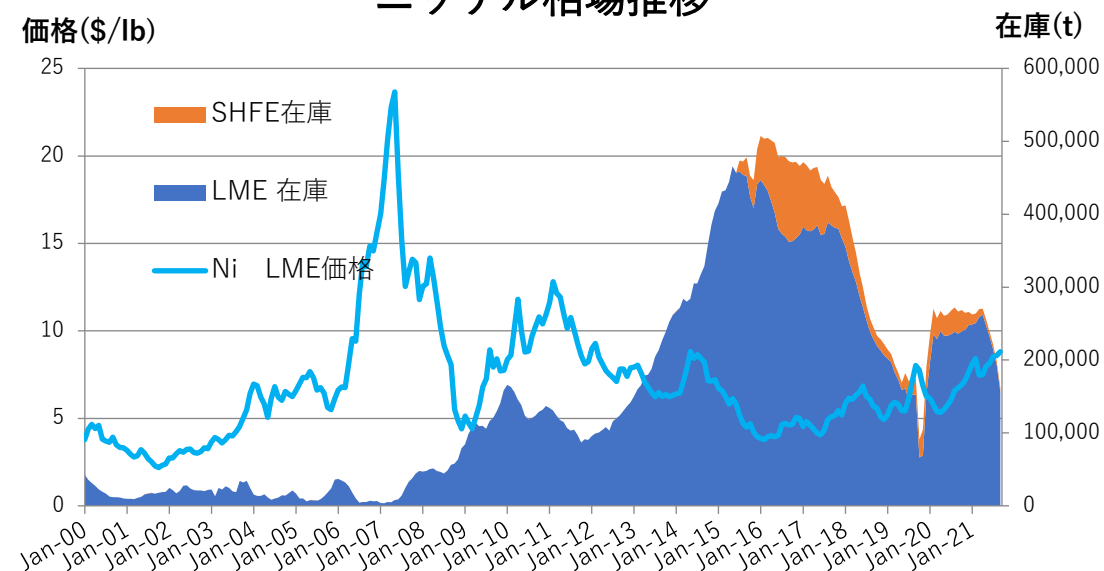
	INSG予測 2021/10			SMM予測 2021/8		
	2020	2021(予)	2022(予)	2020	2021(予)	2022(予)
Production	2,491	2,639	3,120	2,507	2,682	3,016
Usage	2,384	2,773	3,044	2,379	2,776	2,978
Balance	+107	-134	+76	+128	-94	+38

2) 非鉄金属・為替相場

銅相場推移



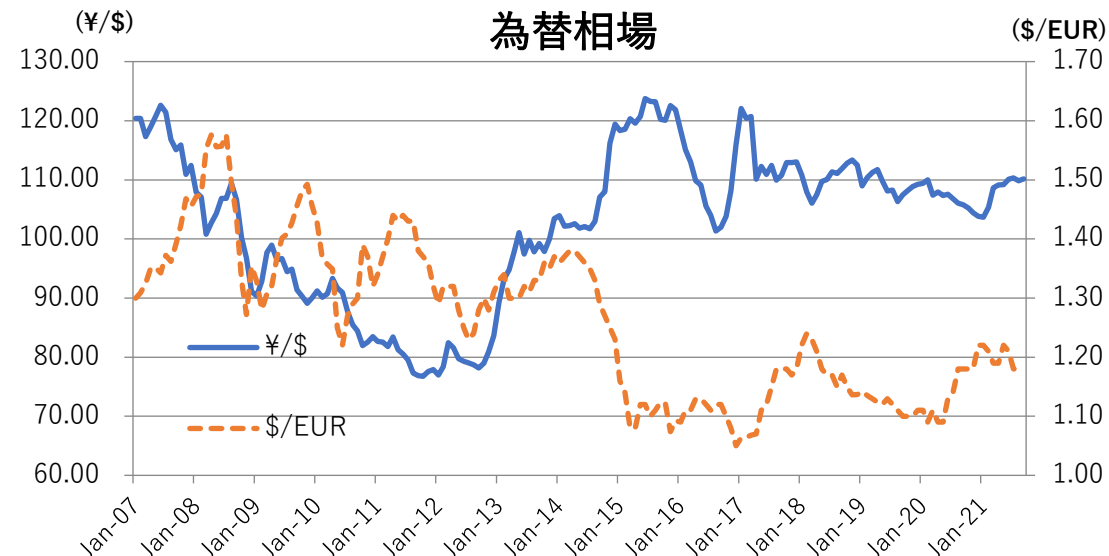
ニッケル相場推移



金相場推移



為替相場



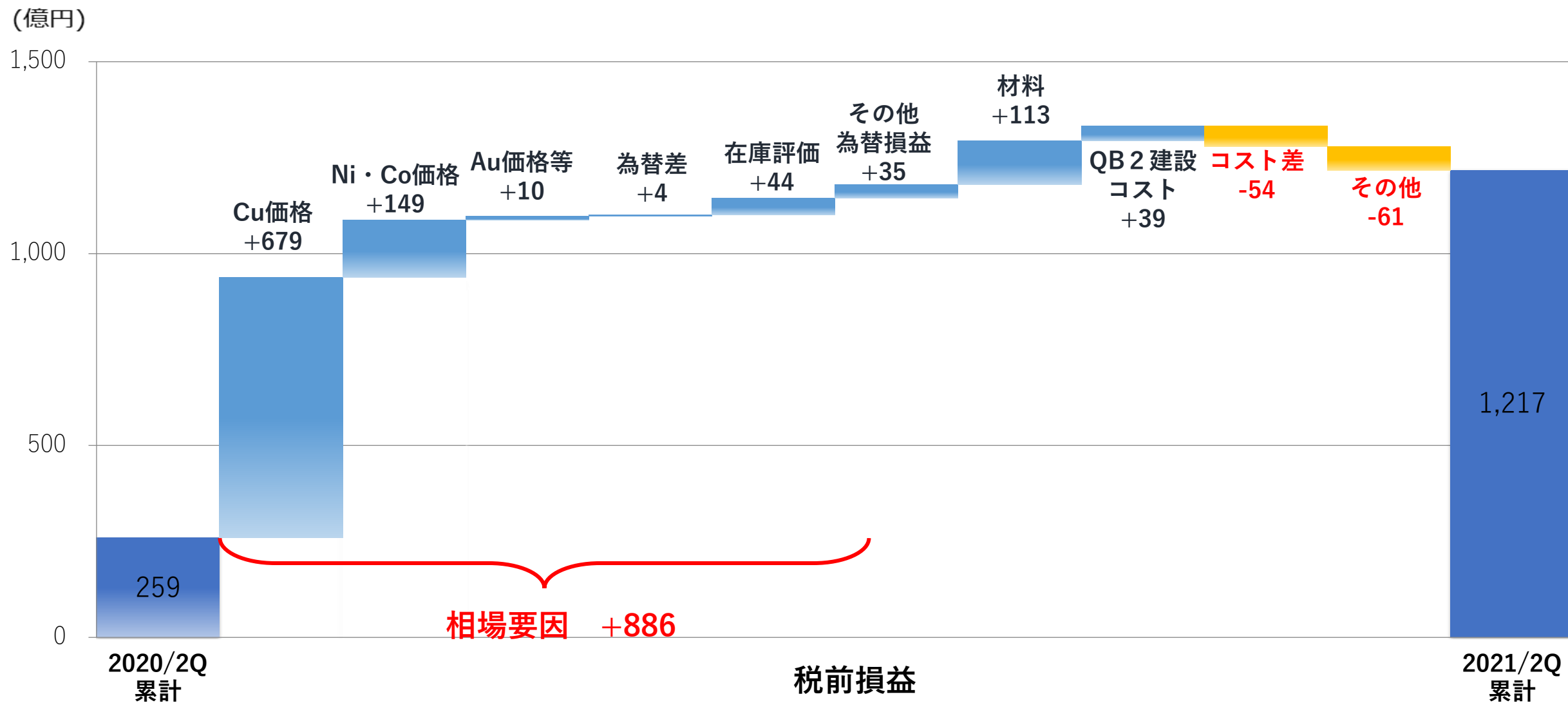
3) 2021年度 2Q業績概要（前年同期比較）①

(億円)		2021/2Q累(A) [IFRS]	2020/2Q累(B) [IFRS]	増 減 (A) – (B)
売 上 高		5,979	※1 4,067	+1,912
売上総利益		1,147	562	+585
税引前損益		1,217	259	+958
内 持分法投資損益		244	-44	+288
セグメント利益 ※2	資 源	674	121	+553
	製 錬	502	152	+350
	材 料	130	17	+113
	その他	0	-3	+3
	調整額	-89	-28	-61
親会社株主の所有者に帰属する当期純利益		1,138	175	+963
銅 (\$/t)		9,541	5,931	+3,610
ニッケル (\$/lb)		8.27	5.99	+2.28
金 (\$/Toz)		1,803	1,811	-8
コバルト (\$/lb)		22.43	14.84	+7.59
為替 (¥/\$)		109.81	106.92	+2.89

※1: 有償支給品に係る会計方針の変更の遡及適用後。

※2: 2021年度より報告セグメントに帰属しない費用の配賦方法を変更しており、2020年度は遡及適用しています。

3) 2021年度 2Q業績概要（前年同期比較） ②税前損益分析



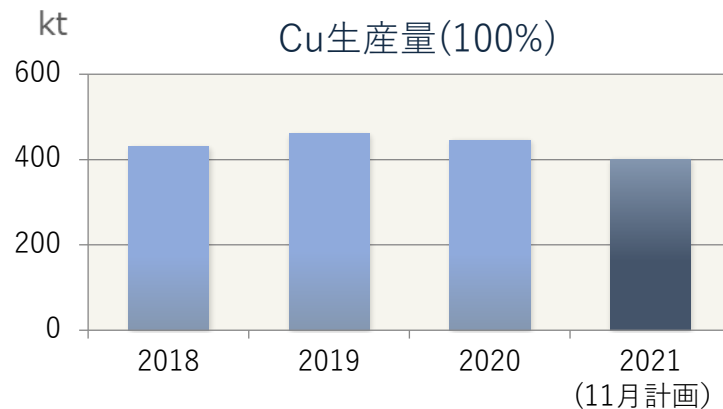
4) 個別事業の状況等 資源①銅（海外操業銅鉱山）

モレンシー銅鉱山（米国）

権益比率	FCX	72%
	SMM	25%
	住友商事	3%



・生産量	2020年度	446kt（実績）
	2021年度	401kt（計画）

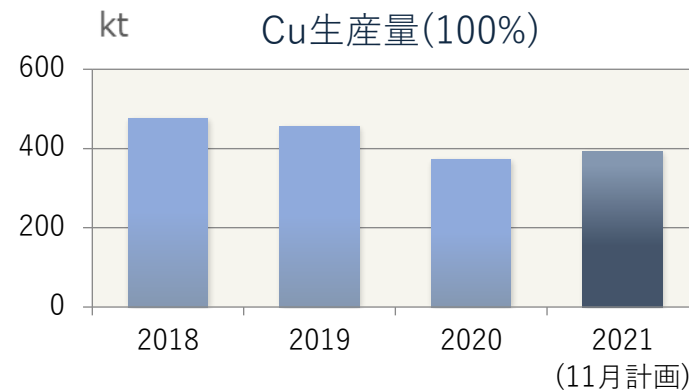


セロベルデ銅鉱山（ペルー）

権益比率	FCX	53.56%
	SMM	16.80%
	住友商事	4.20%
	その他	25.44%



・生産量	2020年度	372kt（実績）
	2021年度	393kt（計画）

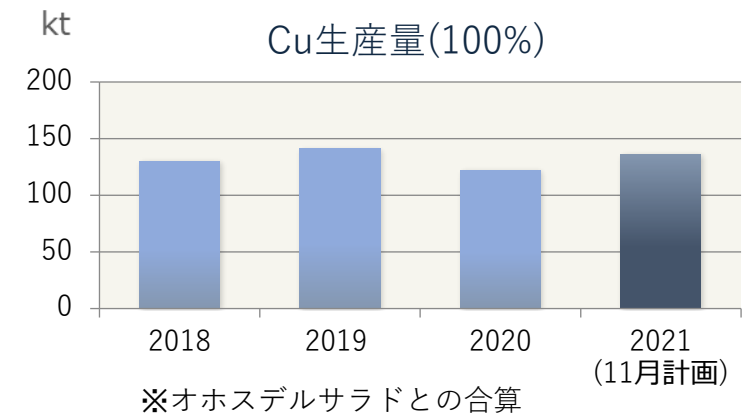


カンデラリア銅鉱山（チリ）

権益比率	Lundin	80%
	SMM	16%
	住友商事	4%



・生産量	2020年度	123kt（実績）
	2021年度	135kt（計画）



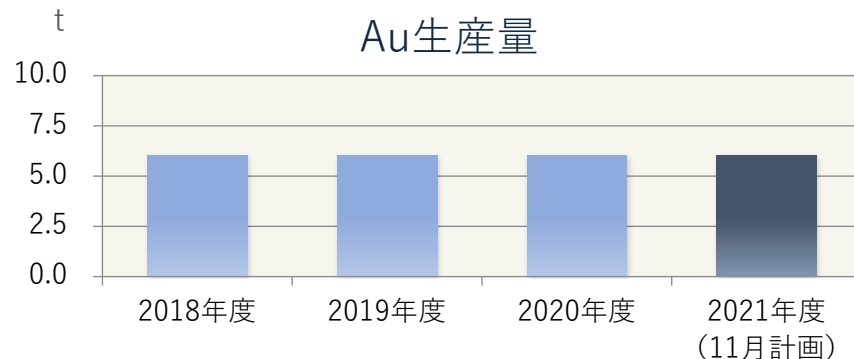
4) 個別事業の状況等 資源②金（菱刈・コテ）

菱刈鉱山 (鹿児島県)

権益比率 SMM 100%



- ・ 下部鉱体開発 保安第一で継続
- ・ 可採金量 2020年末 159t (JIS基準)
- ・ 生産量 2021年度 6.0t (11月計画)



コテ金鉱山開発PJ. (カナダ)

権益比率
IAMGOLD 64.75%
SMM 27.75%
その他 7.50%

取得金額： 195 百万米ドル (約 215 億円)
所在地： オンタリオ州

- ・ 2018年11月にF/S完成
- ・ 2020年8月より建設開始
- ・ 2023年より生産開始予定



初期起業費	US\$1,785M
マインライフ	18年
総生産金量	205t
可採鉱量	233Mt
可採品位	0.96g/t

(初期起業費は2021年11月8日、
その他は2020年7月21日プレスリリースより)

4) 個別事業の状況等 製錬①銅（東予工場）

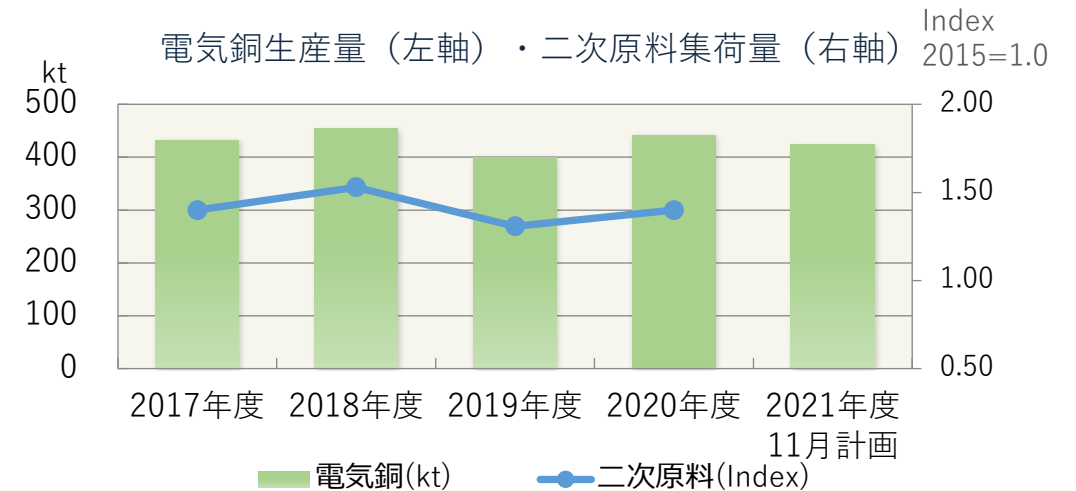
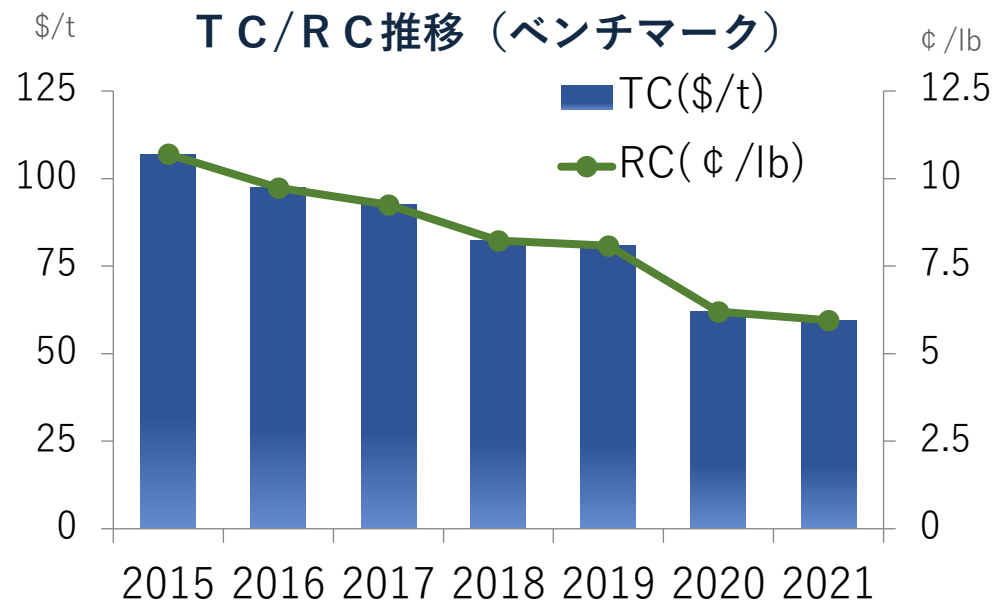
東予工場

電気銅 生産量

2020年度 443 kt（実績）

2021年度 424 kt（11月計画）

※2021年度は定期休転を実施



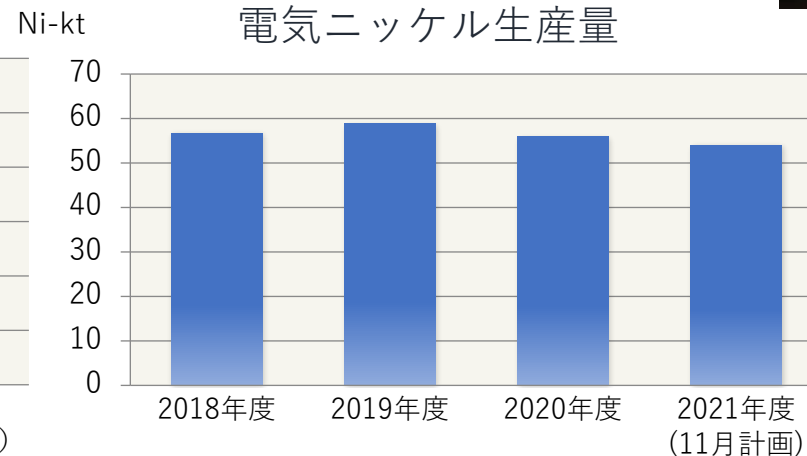
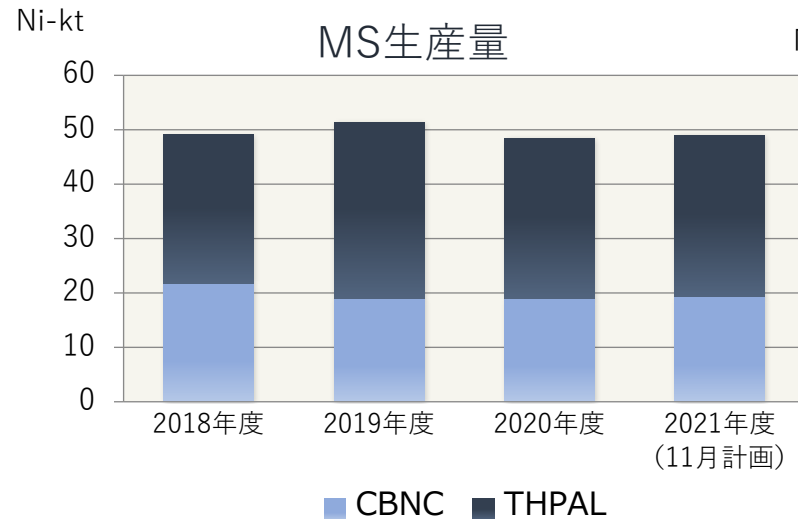
4) 個別事業の状況等

製錬②ニッケル (CBNC・THPAL・ニッケル工場)

CBNC、THPAL、ニッケル工場

生産量

単位 Ni-kt	2021年度 (11月 計画)	2020年度	増減	2021年度 (5月計画)	増減
CBNC	19.4	19.1	+0.3	20.0	-0.6
THPAL	29.6	29.4	+0.2	33.0	-3.4
電気ニッケル (ニッケル工場)	54.0	55.9	-1.9	57.0	-3.0



HPAL副産品回収の最大化

酸化スカンジウム：
2019年1月より商業生産開始

クロマイト：
2021年度より販売開始

4) 個別事業の状況等

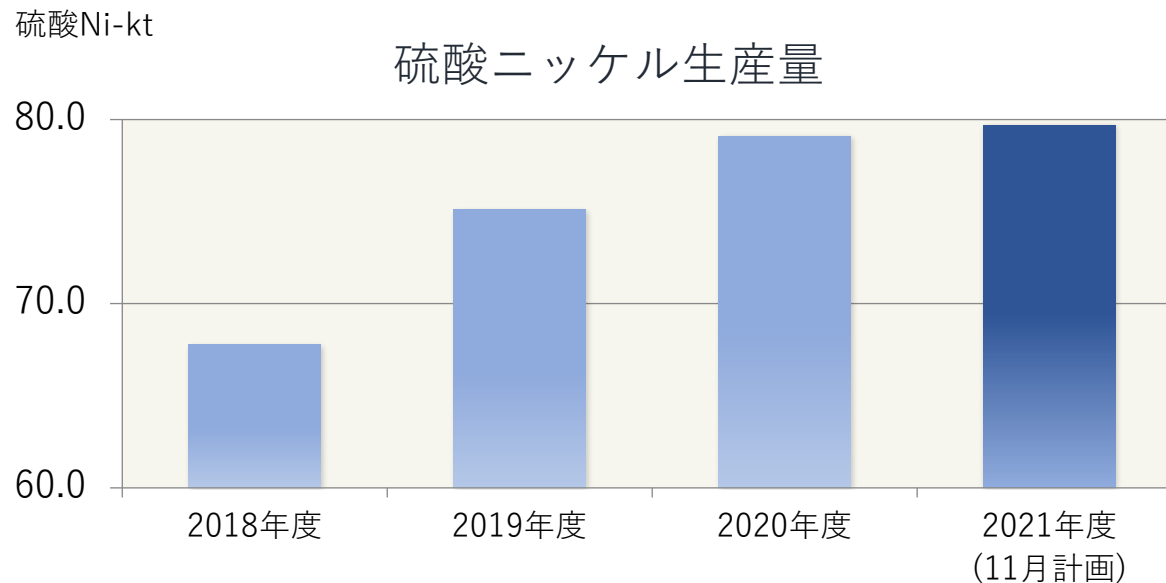
製錬③硫酸ニッケル（ニッケル工場・播磨事業所）

ニッケル工場、播磨事業所

硫酸ニッケル生産量（ニッケル工場と播磨事業所の合計）

2020年度 79.1 kt（実績）過去最高

2021年度 79.7 kt（11月計画）



4) 個別事業の状況等

製錬④フェロニッケル（日向製錬所）

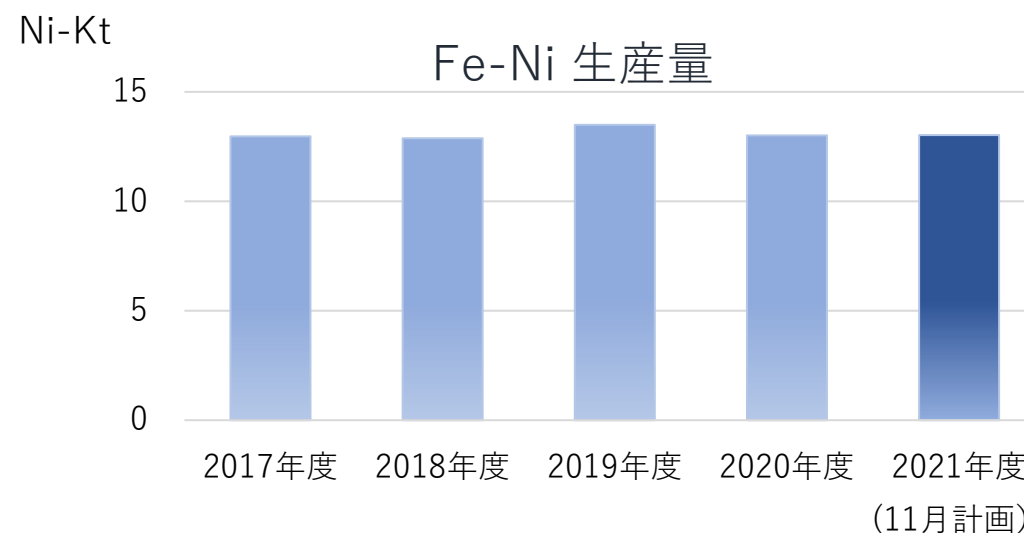
日向製錬所

生産量

2020年度 13.0Ni-kt（実績）

2021年度 13.0Ni-kt（11月計画）

- 2キルン－1電気炉体制下における生産量最大化を図る
- 安定生産と効率操業によりコストダウンを図り、収益を確保する



4) 個別事業の状況等 材料

電池材料

2021年度上期実績：順調な販売が続く。

2021年度下期予想：市場は好調、引き続き順調な販売を見込む。

結晶材料

2021年度上期実績：前期から引き続き順調な販売。

2021年度下期予想：5Gスマホ市場の拡大を受け、需要が継続する見込み。

粉体材料

2021年度上期実績：需要は堅調に推移、好調な販売が続く。

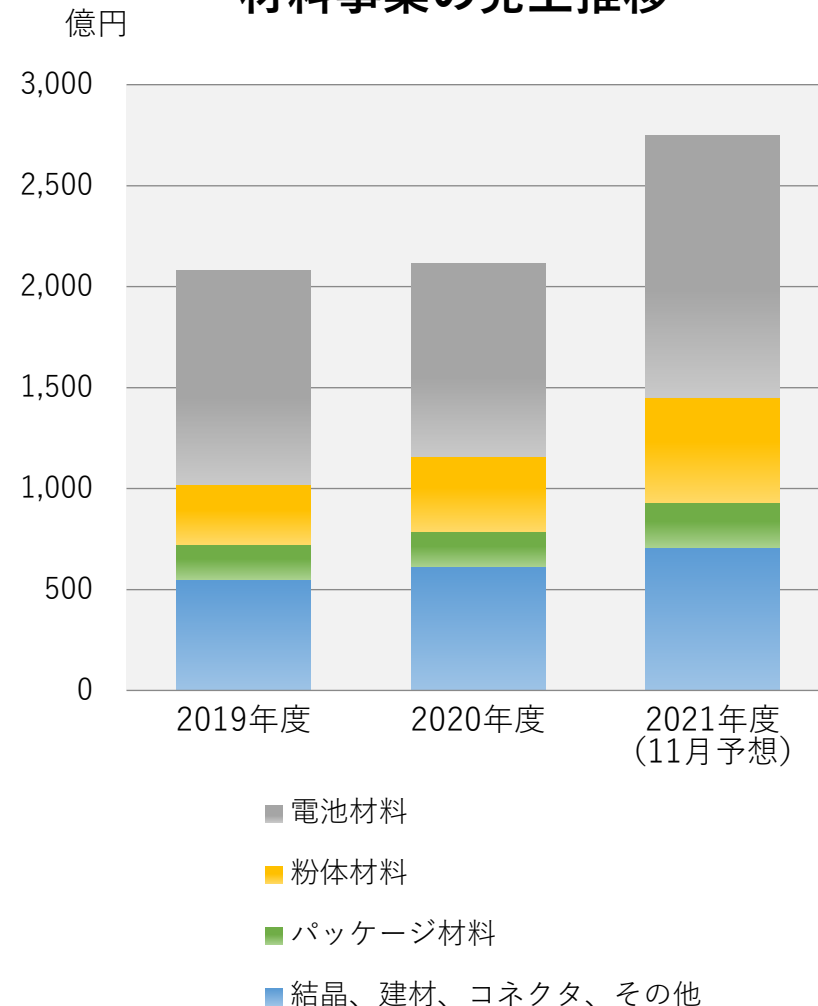
2021年度下期実績：民生用途を中心に堅調な販売を見込むが、一部製品において不透明感あり。

パッケージ材料

2021年度上期実績：スマートフォン、テレビなどに向け順調な販売が続く。

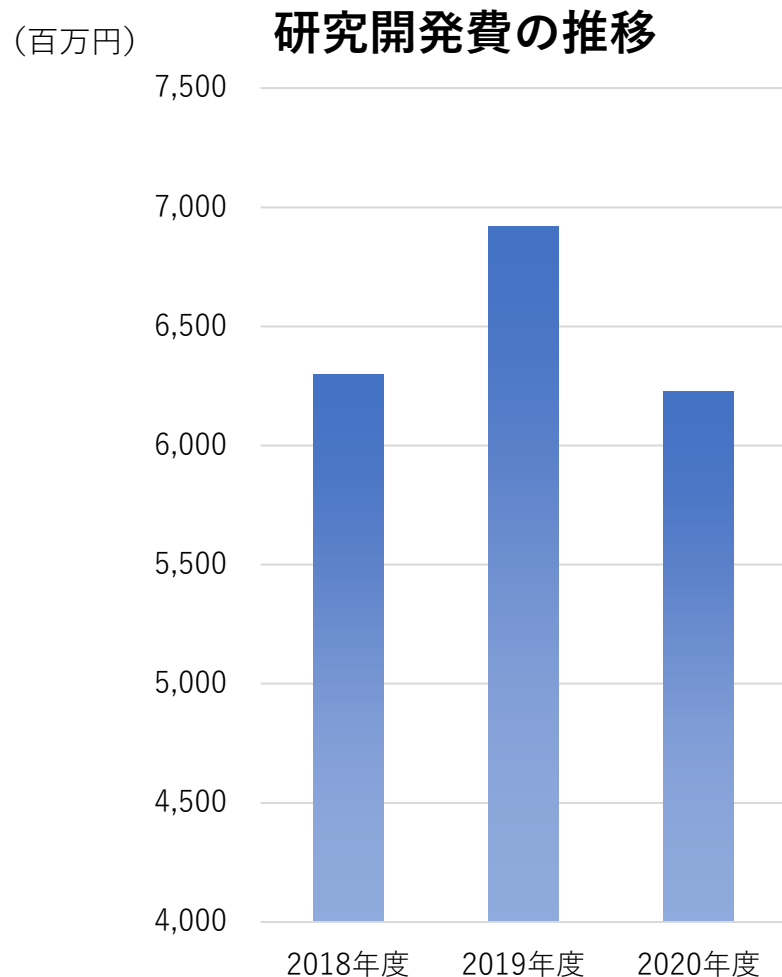
2021年度下期予想：堅調な需要が継続する見込み。

材料事業の売上推移



※: 電池材料の売上高は、有償支給品に係る会計方針の変更の遡及適用後。

4) 個別事業の状況等 研究開発① 成果



材料事業(マテリアル開発)

【電池材料】

- さらなる高性能電池正極材料の研究開発
- 全固体電池への対応

【結晶材料】

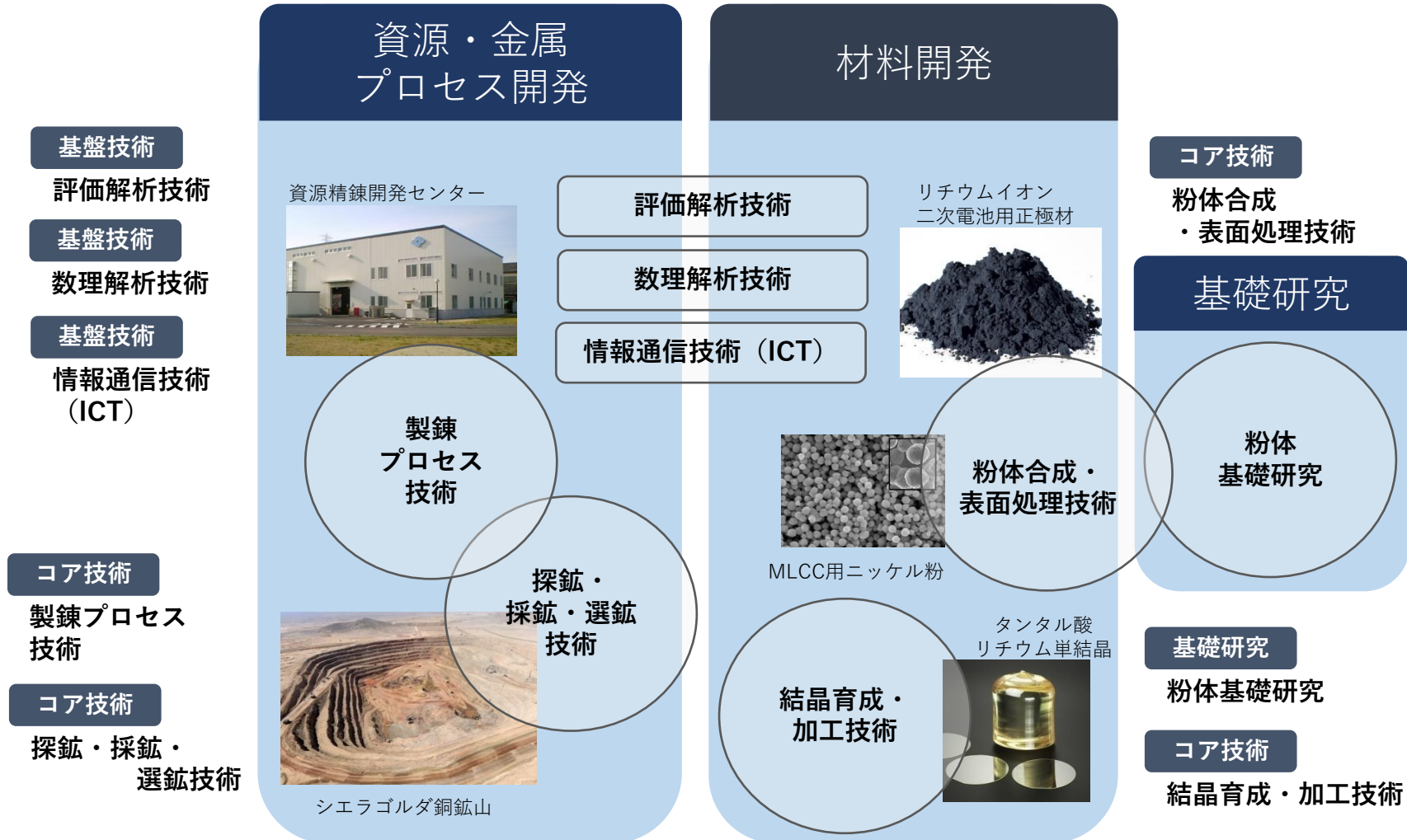
- コモディティ化に先行したコスト低減
結晶の長尺化・大口径化および結晶育成・加工収率の向上等による生産性向上を達成
- 新たなユーザーニーズへの対応
大口径LT結晶育成技術を確立し、ユーザーワーク中

製錬事業 (プロセス開発)

【リチウムイオン電池リサイクル】

- コバルト回収を含めた二次電池リサイクル技術の実証実験に成功
世界初、リチウム回収可能な可溶性スラグ産出を組み込んだ新リサイクルプロセスを確立

4) 個別事業の状況等 研究開発② 領域・分野



成長戦略分野に集中、次世代事業の“種”の探索

5) 感応度試算

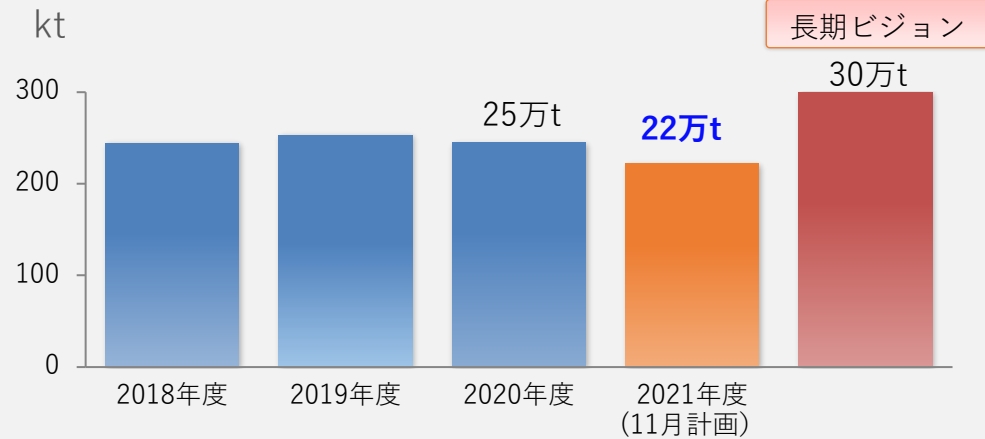
(億円)

要素	変動幅	2021年度 税引前利益
Cu	±100\$/t	24
Ni	±10 ¢ /lb	14
Au	±10\$/toz	2
円/\$	±1円/\$	22

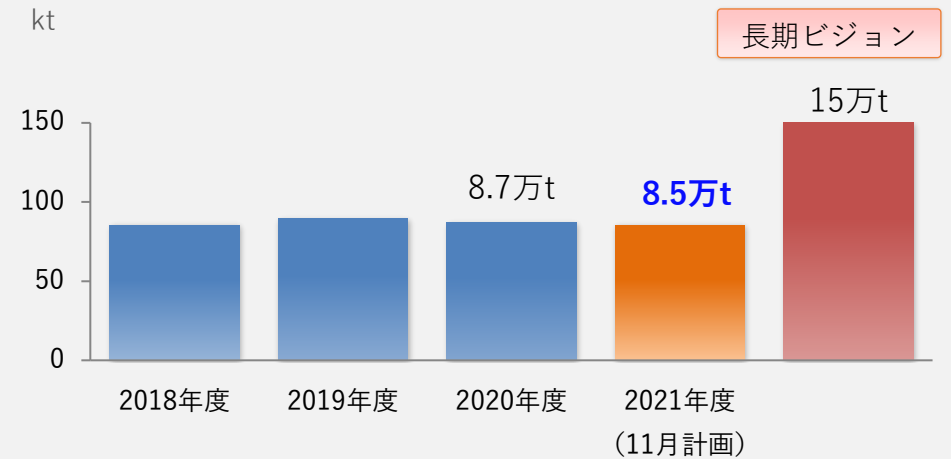
(注) 円/\$ は国内の金属加工収入および海外換算為替差の合計

6) 長期ビジョンのターゲットと達成状況

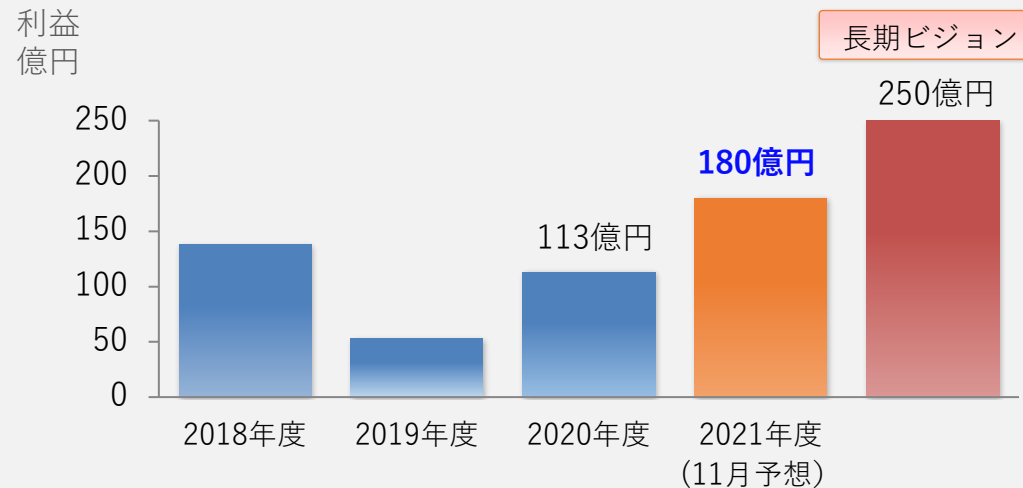
Cu (鉱山権益分生産量)



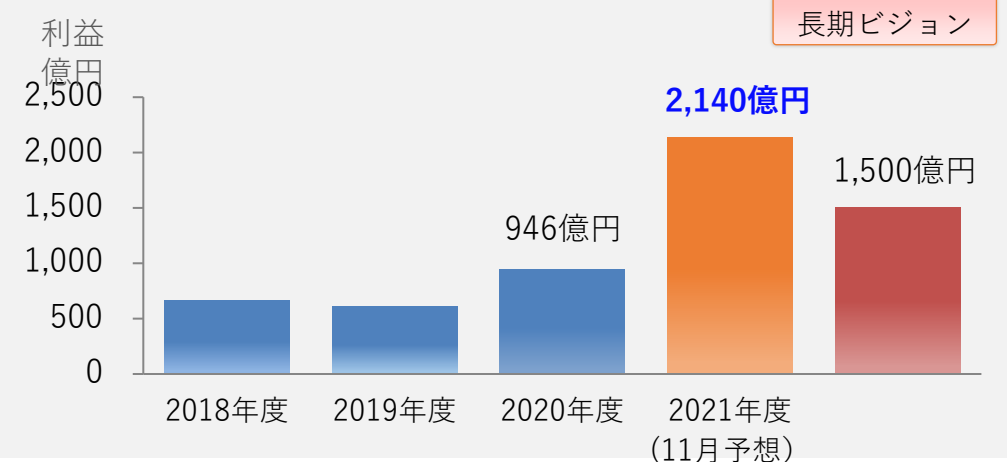
Ni (年間生産量) ※長期ビジョンは生産能力



材料事業 (セグメント利益)



当期純利益



ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

住友金属鉱山株式会社



MINING THE FUTURE

<https://www.smm.co.jp/>

